

「薬物療法」の現状に理解を深めた
室蘭がんフォーラムの会合



室蘭市内の行政機関や医療機関、患者団体、報道機関などによる「室蘭がんフォーラム」(会長・稲川昭室蘭市医師会長)の第11回会合が20日夜、市内東町の保健センターで開かれ、出席者は、がん治療の3本柱の一つ「薬物療法」の現状などについて、情報を共有した。

会合には、各機関の代表ら約20人が出席。「進化する、がん薬物療法」について解説した同会の前田征洋理事(製鉄記念室蘭病院長)は、薬物療法の代表的な治療・化学療法が、現在は大きな効果を発揮している理由として、「複数薬剤の組み合わせ、放射線との併用、副作用を軽減・管理、分子標的薬などの新薬登場、基礎的研究の蓄積」を挙げた。

薬物療法の現状確認 室蘭がんフォーラム

また、薬物療法は、抗がん剤だけでなく、がんをピンポイントで狙い撃つ分子標的薬も「900以上の薬が世界中で臨床実験を行っている」と紹介。免疫チェックポイント阻害剤などの「免疫療法」も急速に発展し、がん治療が手術、放射線、薬物、免疫の4本柱となっている現状も触れた。

一方、薬物療法で高度な知識・技量・経験を持っている「がん薬物療法専門医」が、西胆振ではゼロのため、「腫瘍内科医の確保と腫瘍内科の標榜が、この地区でも必要」と強調。「抗がん剤の治療の市民への知識の普及・啓蒙、患者サポート体制の充実が必要」とも提言した。

(松岡秀宜)